

北九州市立菊陵中学校
学校だより
令和3年11月16日号
校長 上赤義人

学校教育目標
生徒一人一人の個性の伸長を図り、
徳・知・体の調和のとれた、
感謝の心をもつ自主した生徒の育成

全国学力・学習状況調査の結果から

本年5月27日に3年生に実施した、全国学力・学習状況調査の結果ができました。裏面をご覧ください。(学校ホームページにも詳細があります)

調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組を教科に関する取組と家庭生活習慣等に関する取組を挙げています。その中でも、特に「教員の授業力の向上」「学力の定着(学習の習慣化)」「認知機能(記録・言語理解・注意・知覚・推論判断)の向上)」を3つの柱を掲げ取組んでいます。

今後も、生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、今後の学習指導の改善に生かしていきたいと考えています。

柱1 教員の授業力向上

生徒の学力を向上させるためには、教員一人一人が行う授業において”分かりやすい授業”をつくっていくことは言うまでもありません。日々の教材研究は当然のこと、様々な校内・外の研修に先生方は参加しています。さらに、最近では、ICTを活用した授業も進めています。一学期末に実施した生徒アンケートでは、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」という設問に93.4%の生徒が肯定的な回答をしています。(今後100%を目指していかなければなりません)

柱2 学力の定着(学習の習慣化)

生徒が学習習慣を身に付けていくことは学力向上には欠かせないものです。そこで、毎週水曜日の放課後に「放課後教室」を開催し生徒の自主的な学習を教員が

支援しています。また、考査前には「質問教室」も開催しています。そして、学習習慣の定着に家庭学習習慣が定着することが重要です。残念ながら現状では、自分で学習課題を設定し家庭学習を進めている生徒は多くありません。生徒アンケートからは「学校の授業時間以外に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていると思う」という設問からは1時間以上している生徒が74.6%でした。(私は、より多くの生徒が1時間以上の学習をしてほしいし、できれば2~3時間以上は家庭学習に取り組んでほしいです。)そこで、全生徒に自主学习ノート(KSP「Kikuryo Study Plan」ノート)を配付するとともに、各教科等からの宿題が提示されています。保護者の方には是非、一度お子様のKSPノートを見ていただきたいと思います。

柱3 認知機能(記録・言語理解・注意・知覚・推論判断)の向上

本校生徒の授業態度は、まじめであると参観された方々から多くの声をいただきます。校長としても声を大にしてその通りだと思っています。しかし、学習状況調査等からも分かるように好結果となっていません。真面目に頑張る生徒たちにこそ、しっかりと成績結果を残してあげたいという思いから、学習の土台を強化することにしました。ここでいう学習の土台とは、覚える・数える・写す・見つける・想像する力です。この5つの力は各教科だけでなく日常生活の人間関係においても大切なものになっています。本校ではこの力を認知機能(記録・言語理解・注意・知覚・推論判断)ととらえ、全生徒にトレーニングを実施しています。(「コグトレ」発案者の宮口教授<広島大学>の指導の下に進めています)トレーニングの効果についてはまだまだですが着実に実施していきます。

ホットする話

先日、地域の方からお電話がありました。本校生徒からバスの座席を譲られたが、お礼を言うことができなかったので電話をしたということでした。

本校生徒の言動に、また心があたたまりました。